

その足跡を白浜の地に

南方熊楠の業績を紹介する南方熊楠記念館（白浜町）が、生誕150周年を機にリニューアルオープン！

森羅万象、あらゆることに興味を持ち続けた南方熊楠は、生涯に膨大な数の標本や文書を残した。その74年におよぶ生涯に残した標本や愛用品、直筆の原稿等を保存し、一般の方にわかりやすく公開しているのが白浜

町の南方熊楠記念館だ。今年3月には新館が完成、展示スペースを一新し、バリアフリー化を図るとともに英文説明の追加を行った。南国の木々や、色とりどりの草花がうっそうと生い茂る白浜



写真上 >> 森の中をイメージした、明るくゆったりとした新館のエンタランス。吹き抜けには、熊楠の書いた文字を印刷した布で織り込んだランブシェードのような巨大なオブジェが設置されている。写真右 >> 晩年は病気がちだった熊楠だが、亡くなる間際まで書物の編集や後進の指導に力を入れた。



町臨海地区の吉野熊野国立公園「番所山」。今にもルージュを手にした熊楠が現れそうな雰囲気の中、真新しい白い建物が見える。曲線的な外観は、熊楠が研究に情熱を傾けた粘菌の姿をイメージしたという。新館は鉄筋コンクリート2階建て。館内には、その奇想天外な発想力と、探求への途方もないエネルギーを伝える品々約800点を展示している。8歳から17歳まで続けたという江戸時代の百科事典「和漢三才図会」の膨大かつ精密な筆写、おびただしい数のキノコや粘菌の標本、常に持ち歩いたという携帯用顕微鏡、昭和天皇に標本を献上した際にも使われたミルクキャラメルの大箱……。二つが熊楠の情熱や、人柄をうかがわせる。谷脇幹雄館長は「エコロジーという概念をいち早く提唱するなど熊楠の残した大きな業績を、より多くの人に知ってもらえれば」と話している。



「和漢三才図会」の筆写や、手書き文字の並んだ論文には圧倒される。廊下には募金のために書いた「世界一長い」履歴書の複製が。



360度のパノラマが広がる屋上展望デッキ。天気の良い日なら、はるか四国まで遠望できる。熊楠が昭和天皇をお迎えした天然記念物の神島もすぐ近くに見える。

南方熊楠記念館
住所 / 和歌山県西牟婁郡白浜町3601-1
電話 / 0739-42-2872
http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/



国産の厳選したもち米と北海道産のあずきを使用。蒸したもち米をついた後、仕上げるのは手作業だ。もちの弾力は季節や天候にも影響され、「これだけは手で覚えるしかない」と青木さん。



武家屋敷のたたずまいを残す旧南方家住宅は、登録有形文化財として保存、公開されている。緑側にそのむすぶ部屋には机や顕微鏡が置かれ、ありし日の姿をしのばせる。隣接する南方熊楠顕彰館には、膨大な資料論文が保存されている。南方熊楠顕彰館・旧邸住所 / 田辺市中屋敷町36 電話 / 0739-26-9909



辻の餅
住所 / 和歌山県田辺市北新町1
電話 / 0739-22-1665

熊楠が晩年を過ごした田辺市。熊野三山への参詣客で賑わってきた中心市街地の一角に、江戸時代から続く老舗の和菓子屋「辻の餅」がたまたま。名物「おけし餅」の店として地元の方々に親しまれてきた「辻の餅」だ。白いお餅の上に、「ぼてっ」とつぶあんが乗る。その姿が頭頂部だけ髪を残した江戸時代の子供の髪型、お芥子（けし）頭に似ていることからこの名前がついたという。弾力あるお餅とさっぱりとしたつぶあんの素朴な味わいで、長年愛されてきた。甘いものに目がなかった熊楠もまた、「おけし餅」のファンのもかもしれない。

今も変わらない優しい甘さのお餅は「ちよこんと乗ったあんこが可愛い。」

